

# 平成31年度 学校自己評価システムシート（県立浦和高等学校 定時制課程）

目指す学校像	社会的自立を目指し、未来を拓く青年の育成
--------	----------------------

重点目標	1 キャリア教育・進路指導を学年や進路指導部を主体とした組織的な取組により、生徒の進路意識を向上させる。 2 基礎学習の充実及び大学進学に向けた発展的な学習を組織的に取り組み、学習習慣の定着を図る。 3 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業の発展的な取組。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、開かれた学校づくりを進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						
年度目標				年度評価（3月7日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	・生徒の進路に対する意識が低く、将来の夢ややりたいことを見つけられない状況にある。 ・生徒の進学・就職支援を充実し進路意識の向上を図り、将来の夢や目標を持たせ、進路実現につなげることが今後の課題である。	・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこなう、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。	①外部教育力を活用したキャリア教育の推進 ②地元企業や県支援事業を利用した就労（アルバイト含む）を積極的に支援 ③キャリア教育研修会の積極的活用 ④生徒に対する進路に関するアンケートの実施	①川口サポステとの連携により、進路講演会・SST・社会体験事業の全11回実施。 ②インターンシップへの参加、社会人講師の活用 ③キャリアカウンセラー養成研修会への参加 ④70%以上の生徒が「自分の進路について考えている」と回答	①コロナウイルスの影響により9回しか実施できなかったが、新規事業としてOB講話やを実施することができた。 ②インターンシップは現在教員と関係機関で協議中である。 ③2名の教諭が参加をした。 ④全生徒の66%の生徒が「自分の進路について考えている」と回答した。	B
2	・中学校を不登校過ごしたため、基礎学力が不十分な生徒が多数存在している。一方、大学を目指している生徒もおり、学力に大きな差がある。大学を目指している生徒にとっては学習の内容が十分とは言えない現状である。	・大学進学を目標とした生徒へ補習を実施し参加をさせる。と同時に基礎学力が不足している生徒への支援を行う。	①学習サポーターを活用した、始業前・長期休業中の補習の実施 ②ティームティーチングの効率的な活用 ③生徒に対する学習アンケートの実施	①始業前補習の実施、長期休業期間中の勉強会の実施 ②基礎学力テストにより、50%以上の生徒が達成度を上昇させる。 ③80%以上の生徒が「授業にしっかり取り組んだ」と回答	①年間を通して実施することができた。参加者は常に、2～10名程度の参加であった。 ②コロナウイルスの影響により実施できなかった。 ③87%の生徒が「授業にしっかり取り組んだ」と回答した。	A
3	・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのかが本校の課題である。生徒個々の学力差も大きく、理解の深まり方も差が大きい。そのため、さまざまな学習活動の工夫により多様な生徒への対応が望まれる現状にある。	・アクティブラーニングによる知識の定着を達成でき、基礎学力や発展的な学習が深まった生徒の育成を目指す。	①「主体的・対話的で深い学び」による授業の実施 ②未来を拓く「学び」プロジェクトによる、他校及び中学校教員への授業公開の実施 ③他校定時制との情報交換による、授業力の向上 ④基礎学力テストの結果を、他校定時制と情報共有	①全教員が授業において、「主体的・対話的で深い学び」を各学期に1回以上実施した。全日制に島根県より派遣された教諭によるアクティブラーニングを定時制にて実施、授業研究を実施した。 ②公開授業により、他校教員及び中学校教員の参加者を増やす（昨年度12名） ③他校定時制教員との情報交換交流を1回以上実施 ④他校定時制高校と情報共有ができた。	①全教員が、「主体的・対話的で深い学び」による授業を実施した。 ②公開授業を実施できた。他校や一般の参加者13名であった。 ③④他校との交流も2名の教員が視察及び情報交換を行い、授業の内容や行事の内容についての情報交換を行った。	A
4	・保護者会への参加希望は多いが、実際の参加率はその半分程度である。今後保護者が参加しやすい時期や内容を検討していく工夫が必要である。また、中学校との連携を維持・強化することが課題である。	・学校HPを活用し、情報発信を積極的に行い、生徒保護者や中学校との連携体制を構築する。	①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動の理解への強化 ②給食指導等による「食育」を充実、食の大切さ、命の重さの指導 ③保護者対象のアンケートを実施 ④学校HPの定期的な更新と内容の改善	①保護者対象の講演会等に前年度を上回る保護者が参加 ②給食喫食率と残食を最小限とし、給食満足度を70%とする ③保護者会に「参加した」と「参加したい」の検証 ④更新回数（100回）及び閲覧数（7万件）の増加	①保護者会には31名（延べ人数）が参加をした。 ②給食喫食率は100%であり給食に満足している生徒が87%であった。 ③試食会及び講演会では、全保護者から満足であるとの回答であった。 ④学校HPを121回更新し、教育活動の情報発信をすることができた。	A

学校関係者評価	
実施日	令和2年3月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
第1志望で入学した生徒を、がっかりさせないためにも、川口サポステ・インターンシップ等の更なる活用を。生徒へのアンケートは入学・卒業時に実施して、各生徒の変容を教員も生徒も知る。入学した生徒の夢や希望を書かせ、卒業時に4年間を振り返らせたらよいと思う。「66%の生徒が進路を考えている」はよい成果である。さらに割合が増えるよう努力されたい。	
基礎学力テストを入学時と卒業時に実施して、生徒自身がその伸長を知り、また毎日の授業に加えて始業前補習、長期休業期間勉強会等によって、大学進学希望を実現させて、自信を持たせる。基礎学力が不足している生徒がいる一方で大学進学希望者もいる、この幅広い学力には、ある程度個別対応が必要だと思います。基礎学力がついた。目標としていた大学に入れた。ということは相当本人の自信に繋がる。補習に2～10名の参加とあるが、評価基準が分からない。	
アクティブラーニングと「主体的・対話的で深い学び」の内容を整理する必要があるのでは。「総合的な探究の時間を発展させる」は大賛成であるが、具体的な方策の記述が必要。アクティブラーニングという語句は見かけなくなったのでは。「総合的な探究の時間」を通して、受け身の学びを脱して能動的な学びを身に付けさせれば、生徒の大きな財産になる。公開授業13名の参加と他校との交流2名の評価基準が解らない。	
HPを121回更新したのは素晴らしい。閲覧数の増加がどのような結果になったのか。保護者会（給食試食会）に参加した保護者の感想をHP等で広めてはどうか。HP閲覧数は、本校定時制への関心度の目安の一つです。給食試食会に参加した保護者の様子や口コミをHPやPTAだより等に掲載して、他の保護者に知らせることも大事だと思った。保護者会に31名参加とあるが、保護者総数が解らないので、多いのか少ないのかが判らない。	